

平成30年度 藤島高校 学校評価書

項目	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導 研修	生徒一人ひとりの個性・人権を尊重した教育活動を推進する。	「生徒の能力や個性に配慮した教育活動の推進」に対する教職員の取組み指数は100%という高い数値となった。教育活動を実践する中で、個々の生徒の人権に配慮することが教職員の中に定着していることが伺える。	教職員については、さらに研修を充実させ、意識の高揚を図っていく。また、生徒についても授業・LH・学年集会など様々な機会を通して、人権尊重の意識付けを継続的に行っていく。
	「授業評価」を踏まえて、授業内容の改善・充実に努める。	教職員の授業改善や充実した教科指導への取組指数はそれぞれ100%と高い数値である。また、生徒の学習の取組、授業や質問への満足度および保護者の満足度のすべての項目で昨年度より向上しており、授業改善への取組が成果を上げている。授業内容の満足度の1年生の指数が他学年より若干低いことが課題である。	各教科で、ICTを活用した授業や、授業力向上リーダーを中心として、主体的で深い学びを目指した授業力向上に取り組む。また、生徒の実態に応じて、弱点克服・つまずき対策等を実施する。
生徒指導	生徒の容儀端正化に学校全体で取り組む。	取組指数・成果指数・満足度指数の全ての判定が96%を越えており、学校全体として容儀の端正化に取り組んでいると判断できる。教職員の「はい」の回答が44%で50を下回っている点が課題である。	普段の挨拶や声かけなどをとおして教職員と生徒間の心理的距離を近くすることで、容儀だけでなく行動も明るく爽やかな校風を育むことに努める。
	いじめの未然防止と早期発見、早期解決に学校全体で取り組む。	教職員の取組指数は100であり、いじめの未然防止および早期発見・早期解決について十分に取り組んでいる。	SNS上の書き込みは、いじめにつながる不安が常にある。油断をせずに、いじめアンケート調査や個別面接だけでなく、普段の生活においても教職員が生徒の様子を観察するように努める。
進路指導	面談や進路行事などを通して、生徒の進路に関する考えを深めさせる。	教職員の98%が進路指導に十分に取り組み、生徒の94%が進路について十分に考えることができ、保護者の95%が本校の進路指導に満足していることから、本校の進路指導体制は全体的に整っているといえる。学年別にみると2年生の指数が他学年よりやや低い。	進路指導部・学年会・教科会と連携しながら、多様化している進路希望に応じて、生徒一人ひとりにきめ細かい指導ができるように、資料や情報などを提供する。また、1・2年生のうちから「志望理由書」を書く指導を加え、進路目標をより具体的に意識させる。
保健管理	担任、教育相談担当、専門家の連携による、教育相談活動を充実させる。	取組指数、成果指数、満足度指数ともに目標値を上回る状態が継続している。教職員の中にカウンセリングマインドが定着し、生徒・保護者の多くもそう感じていると考えられる。今後は、問題が生じてからの治療的な対応だけでなく、問題を生じさせない学校づくりをさらに進めていくことが課題である。	「先生が相談に親切に対応してくれている」とすべての生徒が感じ、成果指数が100%となるように、教職員のさらなる意識向上のための情報発信を行う。問題を生じさせない学校づくりのための提言も行う。
環境美化	学校全体でゴミの減量化と環境美化に取り組む。	「積極的に清掃に取り組んでいる」とする指数については、教職員が98%、生徒が85%と目標指数を上回っている。しかし、生徒については依然15%は積極的ではないので、この状況からさらに向上することが課題である。ゴミの分別に関しては、教員・生徒ともに90%を超え目標指数を上回っている。	清掃委員会の自主的な活動を活性化し、生徒会執行部とも連携して、清掃については生徒の意識をより高め、ゴミの減量化については「校外から持ち込んだもののゴミは各自で持ち帰る」という原則を徹底させる。
図書	図書館行事や広報活動を充実させ、生徒の読書意欲を喚起する。	学級文庫や、図書館活用など、教職員の読書推進活動は着実に増加しており、89%と前年から3ポイントアップした。生徒の取組指数が向上した。今年には特に読書週間に図書館ライブや読書会を集中的に実施し、委員会活動を活発化することを通して、図書館に足を運んだり、本を借りるきっかけが多く作られてきた結果と考えられる。	教職員については今後も学年会、教科会との連携を深めながら、生徒への読書意欲を喚起するための働きかけを継続していく。今年度は静粛タイムでの読書が推進されていたので、これを継続していく。生徒については、図書委員会の活動を中心に、本を読むことの楽しさや読書と学校活動との連携を訴える、効果的な広報活動に努める。
情報	校内ネットワークおよび情報機器の充実と利用促進を図る。	「校内ネットワークおよび情報機器を利用して、教育活動の効率化・充実化を図っている」ということに対し、「はい」または「どちらかといえばはい」と回答した教職員が100%になっている。3/4の教職員が、「はい」と回答しているため、意識は高いと言える。	新しいネットワーク等が入ったことで、多少混乱が見られたが、より使いやすく、わかりやすい設定を心がけることで、積極的にネットワークおよび情報機器を使ってもらえるようにする。
保護者との連携	保護者と連携して教育活動を行うために、PTA活動や連絡を充実させる。	教職員の98%、生徒の90%が保護者への連絡を十分に行っており、相互の連携は図られていると考えられる。保護者に関しては、85%が教育活動や連絡を十分理解しており、92%が学校の理解促進の取組みに満足している。昨年度同様、すべての項目が判定基準の目標値を超え高評価であるので、このまま維持するようつとめる。	学校の教育活動を十分理解していただくように、保護者への広報・連絡方法の改善を継続していく。保護者への広報のために、PTAのホームページの充実につとめる。全教職員に、保護者と連携して教育活動を行うことの意義を常に意識するよう働きかける。
企画研究	SSHの研究課題の達成に向けて、学校設定教科「研究」を充実させる。	生徒の主体的自発的な活動を重視したことで、生徒の研究に対する満足度は、研究ⅡⅢとも80%を越え、ⅠⅢはかなりアップした。しかし「熱心に取り組んでいる」の値と「満足度」の値では5～8%の差がある。	更なる「研究力」をつけるために、先輩から後輩に研究をアドバイスする場の設定や教員間の指導方法の共有、研究のサイクルの確立などを図る。さらに外部連携機関の協力の下、指導体制の充実を行う。
	SSH研究を学校全体の取組として位置付け、研究体制を充実させる。	教員の100%がSSHの取組は学校全体の取組みとなっていると回答している。担当者打合せ会でも内容の検討が行われるなど充実してきた。	1～3学年で「研究」が実施され、より多くの教員がSSHの教育活動に携わるようになった。今後は課題研究発表会などにおいても、教員間の連携をより細かに図ることで、より充実した取組みに繋げる。